

メキシコの人達

田邊成

工学部システム創生学科進学

好きなスペイン語は、

Otra vez por favor

メキシコにいた二週間はラクロス部の全ての義務から解放された夢のような二週間だった。一年半スペイン語を勉強してきた仲間と一緒にメキシコを堪能できたこの思い出は人生一番と言っても良いだろう。今回の旅では授業や観光などいろいろなアクティビティがあったが、ここでは自由時間での現地の人との交流を記憶を辿って記録していきたいと思う。

まずは初日に出会ったemi君(Emiliano)。バスケットをしようと思いき公園に行った時に出会った。同い年でとても大人しそうな性格をしていたが、最後にインスタを交換してもらった時にとんでもないやつであることが発覚した。プロフィールを確認した時に僕は驚きを隠せなかった。なんと彼女とキスしている写真の口にアップした画像をプロフィール画像にしていた。その後も高頻度で彼女へのらぶメッセージ的な、日本の大学生には到底恥ずかしくて上げられないようなストーリーを上げていた。しかし、色々な人とインスタを交換していくうちに、彼がそれほど異常なのではないことに気づき、メキシコは愛の国であることを知ることになった。この件でもっと印象に残った記憶はUNAMを訪れた時だ。UNAMはキャンパスの大部分が芝生のスペースで埋め尽くされている。イメージは新宿御苑みたいな感じだ。そしてそのスペースはほとんどカップルで埋め尽くされていた。しかも大体がかなりの濃厚な接吻をしていた。グレゴリー先生はこれをamor libreと呼んでいたように、愛情表現が公共の場で許されているのだなと思った。そしてこのような環境を作り出しているのは一人一人の思想、愛情表現は人目を憚るようなことではないという思想を全員で共有してることで成り立っているのだなと感じた。

メキシコシティー3日目の夜、emiに教えてもらったtaqueriaにやっと思に行くことができた。ホテルに戻る際にちょっとした広場でガキ達とサッカーをした。年齢を聞いたら中学生だったが、だいぶ小さく見えた。ヒスパニック系の顔をした子が二人、白人のぽっちゃりした子が一人の三人組で、白人の子がゴーリーをしていた(やっぱり)。なんかほっこりした。しばらくサッカーをして別れを告げ、ホテルに向かって歩いていると後ろから誰かが走ってくる音が聞こえ、振り返ってみるとさっきのガキンチョ達だった。だいぶ走ってきたようかなり息が切れていた。どうしたのと聞くと、連絡先を交換したいと言われ、もし週末暇だったら一緒にサッカーをしようぜと誘われた。率直に嬉しいという思いもあったが、ここでもし立場が逆だったらどうだろうとふと思った。僕がもし中学生だったとして、年上のメキシコ人のお兄さんと友達になろうという発想は持てなかったと思う。おそらく年齢による隔たりが日本より小さいのだろうと思った。そして何よりもその子の純粋さ、俺らの年齢とか人種とかを気にせず、ただサッカーをする相手が欲しいというピュアな思いを感じられて嬉しかった。

コヨアカン市場を訪れた日に近くの屋台で念願の青いタコスを食べることになった。お母さんとおばあちゃんの二人体制で営業しており、食材が置いてあるテーブルの下に5歳くらいの娘が寝ていることには途中まで気づかなかった。列に並んでいる時に、近くの音大に通っている大学生と少し話すことができた。屋台にはメニューがなく、金額もどこにも記載されていなかったのので彼に聞いてみようと思った。メニューに関してはパストールやカルニータスがあるよと教えてくれたが、金額は覚えてないと言われた。もしかしたらあまり来ることがないのかと思ったが、聞いてみたところほぼ毎日ここで昼食を済ましていると言う。わけが分からなかった。さすがにいいかげんすぎるだろって言いたかったがイジる勇氣はなかった。タコスが出来上がるまで”small talk “をしていたが、”que chido”と4回くらい言われた。Rino先生にスト

リートでよく使うフレーズとして教わったが、ここまで連発されるものとは知らなかった。間違えて”que chido”と返してしまった。ラテンアメリカの人達は大雑把で細かいことを気にしないというが(悪く言えばてきとうであるということ)、まさにこの例だなと思った。しかしこのステレオタイプに当てはまる人は彼くらいで、どちらかというこの二週間を通して、想定していたよりも真面目な人が多いなと感じた。特にCEPEの学食でオーダー番号を大声で読み上げていた人なんかはとても熱心に仕事に励んでおり、一回番号を呼びながらトイレに入ってきた時は正直ビビった。ブルータコスは美味しかった(ちょっと高かったけど。)

ペドレガル最終日の午後、初日と同じ公園で今度はサッカーをした。yahir、chino、とgorditoの高校生3人とチームを組んで他のチームと試合をした。どうやら癖っ毛の人をchinoと呼ぶらしく、gorditoは案の定ぽっちゃりしていた。東京から来たことを伝えたらとても喜んでくれて、車を見せてよと言われた。僕はあまりピンと来なかったが、隣に車好きのウーゴがいたため彼が会話を続けてくれた。どうやら彼らの東京に関するインプットはfast and furiousのTokyo Driftしかないらしく、カッコいい車がたくさん走っているというイメージを持っていたらしい。なかなか意外だった。ふと思うと日本の高校生達はメキシコと聞いて何を思い浮かべるのだろうと考えた。おそらくラテンアメリカの国全般的に当てはまる陽気な国民性、音楽、ダンスなどを思い浮かべるのだろうか？サッカーもそれほど強くないのでブラジル、アルゼンチンほど印象はない。一番有名な事と言ったらやっぱりネットでよく見る麻薬組織の横行になってしまうのかもしれない。こういうことを考えていると、結局我々がいろいろな国に対して持っているイメージもおそらくその程度の解像度であり、実際に訪れて、生身で感じるまで知識とは言えないのだなと感じた。そう考えると僕たちは今メキシコに関して語れるというなかなかレアな人材になれたのだ。スペイン語勉強してきて良かったなと思うし、なんといっても入試の英

語で100点をくれた東大に感謝したい。

マニとかでの出会いもたくさんありましたが全部カバーすることはできないため今回はここで終わりたいと思います。tlpのメンバーそしてグレゴリー先生とさやかさん（と旅行代理店のお二方）、本当にありがとうございました！

La Gente

Jo Tanabe

Las dos semanas que pasé en México fueron como un sueño que nunca olvidaré. Durante estas semanas aprendí mucho sobre la gente y la cultura de México, y también vi aspectos de mis compañeros que nunca he podido ver en las clases. Hicimos muchas actividades pero en este papel voy a escribir sobre las características de los mexicanos.

Una cosa que noté en este viaje fue que los mexicanos son románticos.

Conocí a mucha gente y ahora sigo a algunos mexicanos en Instagram y todo lo que veo es fotos románticas y mensajes para su novio/novia. Los japoneses no hacen esto porque es demasiado embarazoso para ellos. Especialmente para los hombres, que tienen miedo de que sus amigos que se burlen. En la UNAM, hay muchos espacios para descansar fuera de los edificios. Casi todo el espacio lo usan las parejas abrazándose y besándose. Yo pensé que los mexicanos sienten que no es necesario preocuparse de lo que los otros piensan, en cómo expresar el amor a su novio/novia. Es por eso que los otros no se preocupan de lo que tú haces. El Profesor Gregory llamaba a esto “amor libre”.

Otra cosa que noté fue que los mexicanos son muy energéticos. Cerca del mercado de Coyoacán, había una fiesta donde los viejos estaban bailando. Estaban bailando con todos, no le importaba si eran extraños. Este fue un lugar donde ellos venían para conocer nuevas personas y disfrutar mutuamente. Yo pensé que esta era una buena manera para que ellos se mantengan saludables mental y físicamente. Espero envejecer y estar tan saludable como ellos. Y también esto demuestra la energía que los mexicanos tienen.

Y la última característica que yo descubrí fue que a los mexicanos les encanta usar malas palabras y hacer bromas unos sobre otros. Así como nos dijo la chica de UNAM para la presentación, una conversación necesita

que una persona esté en desacuerdo con otra. El Profesor Rino nos dijo la misma cosa y nos enseñó malas palabras que nunca podría haber oído en clase de Japón. Pensé que esto es similar a mi relación con mis mejores amigos hombres, pero me sorprendió que fue lo mismo con las mujeres. Espero que un día tenga un amigo mexicano con quien pueda hacer chistes en español. Y por eso necesito seguir aprendiendo español.

Tal vez la situación es similar en otros países latinoamericanos. Pero las características que expliqué los hicieron divertidos para hablar, y esto hizo la experiencia aún más agradable.

お元気ですか、ありがとう

畑田直樹

教育学部教育実践政策学科進学

好きなスペイン語は、

regatear

メキシコの研修に出発する前からひとつ決めていたのは、現地の人となるべく積極的に会話をしよう、ということだった。小学生のころ多文化社会であるアメリカに滞在していた経験の影響か、自分と異なる国で暮らす人と出会って意思疎通をする経験が昔から好きだった。実際に、メキシコで過ごした2週間は、本当に多くの人と言葉を交わすことができ大変満足した。その一方で、異国に住む人との出会いを通して彼らの人生を覗き見ることに、なんだかはっきりとしない罪悪感のようなものを感じたときもあった。メキシコで出会ったひとりひとりの人や、そこで自分が感じたことを忘れてしまわないように、ここに書き残しておきたいと思う。

メキシコの人、想像していたとおり、陽気で、初対面でも気さくに話してくれる人が多かった。売店の会計ひとつとっても、店員さんが「やあ、お元気ですか？」とか「どこから来たの？」と尋ねてくれることが日常茶飯事だった。メリダでビーチに遊びに行った際には、昼ご飯を提供してくれたスタッフのお兄さんが、帰り際に自分たちの訪問を歓迎する即興のラップを披露してくれた。はじめ自分は、日本ではなかなか体験しないそうしたフレンドリーな対応にかえって戸惑ってしまい、苦笑いをしながら簡単なスペイン語の単語でおぼつかない返事をするしかできなかったが、隣でグレゴリー先生が「ああ元気だよ、ありがとう。君はどうだい？」といったふうに自然に返しているのを見て、段々と自分も小慣れた返事をするできるようになった。といっても、いい感じの返事を何パターンか暗記して準備していただけなのだが、うまく返せてやりとりが成立すると、えも言

わぬ達成感がおしよせた。シウダデーラ市場におみやげを買に行った頃には、先生に教わった通り、店で自分の言葉で“regatear”（値下げ交渉）することに成功した。今思うと、値下げに応じてくれた店の人たちはきっと、観光客の学生がつたないスペイン語で話しているのを見て笑ましく思い、少しサービスしてくれたのかもしれない。素敵な体験をさせてもらい、感謝している。メキシコで一番楽しかった思い出は、と聞かれたら自分は間違いなくこの値下げ交渉とお店の人たちと交わした会話だと答える。また、CEPEでの授業で、大学内を歩いている人に自分で声をかけてインタビューをするという回があったが、勇気を出して声をかけた学生やスタッフの方は、皆親切に自分のことについて話してくれた。このような、知らない人でも関係なくオープンに接してくれる彼らの気質は、10年ほど前に暮らしていたアメリカで出会った人々によく似ていると思った。初めて会った人と陽気な挨拶を交わしたり、出身地など簡単な自己紹介をし合ったりする。つらいことがあった時や元気が出ない日に、こういうふうに周りの人からふと明るい言葉をかけてもらえたら、ちょっと気が楽になるだろうな、と思った。特に深く関わるわけではなくとも、会話のなかでお互いのことを少し良い気持ちにさせるようなメキシコ人の交流の慣習はとても好きだと感じた。

もちろん、軽い挨拶以上の関係を持つことができた出会いもあった。特に、UNAMで知り合った大学生たちと過ごした時間は印象に残っている。発表会の後に設けられた学生たちが自由に交流する時間には、彼らは自分の研究や生い立ちについて多くを教えてくれた。大学での専門分野は？とか、日本語を勉強していて難しいと感じることは？（敬語と漢字だ、と彼らは口を揃えた）といった軽い世間話だけでなく、スペインによる侵攻の歴史についてどのように学校で教わるかとか、その歴史に対する自分たちと親の世代の認識の差異といった深入った話題まで、初対面とは思えないくらい率直に話をしてくれたことに驚いた。最終日にはこの時知り合っ

た学生たちと再会してメキシコシティを案内してもらったのだが、彼らは私たちがメキシコを最大限楽しめるよう、ほんとうに丁寧に心を配ってくれていたのが伝わってきた。観光名所の宮殿に入る際の手荷物検査で自分が持っていたパンが引っかかると、UNAM生の一人が警備員の一人に交渉して、自分たちが出口に戻ってくるまで荷物を預かってくれる約束をしてくれた。また、お昼ご飯の時間が押して自分たちがホテルへの集合時刻に間に合わなさそうになったとき、UNAM生たちが会計は自分たちでやっておくよとお昼ご飯を奢ってくれて、加えて自分たちがホテルに間に合うためのUberまで手配してくれた。もちろん君たちは何も払わなくていいんだ、と彼らは当たり前のように口にした。なんて温かい人たちなのだろう。さりげない優しさに、正直少し涙がこぼれそうになった。同時に、逆の立場だったら自分は初対面の人にこんなにためらいなく親切にすることができるのかと内省せずにはいられなかった。

一方で、研修で人々と出会い、彼らの暮らしを見せてもらう中で、自分はその人たちに対して失礼なことをやっているのではないかというざらざらとした気分を感じたことがあった。研修後半、マニの町に訪れた際、道沿いの小さな店に飲み物を買いに立ち寄った。バスを降りて店に入ると、そこには店を経営する人の家族と思われる小学生くらいの子どもたちやその友達らしき子がいた。この子どもたちは私たちのことを珍しいものを見るように眺め、とても興味深そうに近づいてきた。一人の子に「どこから来たの？」と訊ねられた友人は、「日本だよ」と答えていた。別の子にフルーツのプレゼントを渡されていた友人もいた。ただ、このやり取りの中で、自分はこの子どもたちと積極的にかかわることができなかった。なんとなく、この子どもたちと関わることで、悪いことをしているような気がしていた。

後になって、あの時自分が感じていた罪悪感のようなものがよりはっきりとわかった。多分、自分はあの場に「貧しい村で暮らす子どもたちと、日本から来た金持ちな観光客」と

いう構図を勝手に感じ取っていたのだと思う。マニの町は全体的に古くて粗末な作りの建物が多かった。だから、そういう町で出会った子どもたちは、貧乏な家庭に生まれて、教育もまともに受けられない可哀そうな子たちに違いない、と思い込んでしまっていた。それで、そんな子どもたちと自分たちが関わるなんて、彼らのことを消費しているのではないかと考えてモヤモヤしていたのだった。今思えば、これを書いているだけでも恥ずかしくなるくらい、それこそが非常に雑で失礼な思い込みだった。町並みのざっとした印象からその人々の生活を想像し、自分より恵まれない人たちだと決めつけていた。仮に実際にそうだったとしても、周りの友人はあの子どもたちのことを消費してなどいなかった。子どもたちと友人たちが楽しんでいた会話やお土産の贈り合いは、普通の純粋な人と人同士の交わりだったし、それは、自分が気に入った初対面の人との陽気な日常会話と何も変わらない、かけがえのない出会いだった。

いくら書いても書ききれないくらい、ほんとうにたくさんの出会いと情動がメキシコでの二週間には詰まっていた。関わった人たちとの思い出は、自分にとって一生の宝物だ。今自分は、出発前には想像していなかったくらい、メキシコと、そしてそこで出会った人々の縁を、今後もずっと大切にしたいと思うようになっている。近い将来、またあの地を訪れたい。その時は、ご飯を奢ってくれたUNAMの学生たちに会って、今度は自分をご馳走することができたら、とてもうれしい。

Los que México me ha dado

Naoki Hatada

Las tres cosas que eran más memorables de mis dos semanas en México son la oportunidad de practicar mi español, la hospitalidad de la gente y las cosas únicas que no podemos ver en México.

En primer lugar, disfruté practicando español en México. Esto es porque podría practicar español que estudié por un año y medio en un lugar donde utilizan español. Hablé en español en aeropuertos, tiendas y restaurantes. Al principio era muy difícil decir frases largas en español rápidamente porque necesitaba tiempo para pensar. Pero, después de practicar por unos días, gracias a las clases en CEPE, podría decir frases más largas sin pensar mucho. En el mercado, podría regatear, usando frases de varias formas. Me gustó hablar con mexicanos porque podría aprender sobre su cultura y su vida. Por ejemplo, en UNAM, después de las presentaciones, algunos estudiantes me hablaron de temas difíciles, como la percepción que tienen sus familias de la historia de la colonización española.

En segundo lugar, me sorprendió la hospitalidad de la gente. Cuando iba a mercados o restaurantes, muchas personas me dijeron “Bienvenido a México”. Cuando hablaba con ellos, algunos me enseñaron sus recomendaciones en México. Cuando dije que era de Japón, algunas personas me hablaron de su anime favorito. Estaba muy feliz de saber que les gusta la cultura de mi país. En el mercado, cuando practicamos “regatear”, muchas personas de las tiendas fueron muy amables y me bajaron el precio. También, los estudiantes de la UNAM fueron muy amables. El último día nos enseñaron muchas cosas sobre su cultura. Se ofrecieron a pagar nuestra comida y el Uber al hotel. Me encantó su hospitalidad, y pensé que es muy importante la hospitalidad a personas que visitan Japón. Creo que es importante conocer la cultura de muchos países. Eso es porque, cuando conozca

a alguien de ese país, pueda hablar de su cultura como hicieron los mexicanos conmigo.

Además, en México había muchas cosas interesantes que no podemos ver en Japón. Las más importantes son las tarántulas y los escorpiones en Maní. Tenía un poco de miedo, pero fue una experiencia muy rara. Hay muy pocos japoneses que hayan dormido con tarántulas en la habitación. Por eso, estoy orgulloso. Además, en Mérida había una moto muy interesante. Su rueda delantera se había transformado en un gran silla para muchas personas. Era muy creativa y me gustó.

Las dos semanas en México era una experiencia muy amable y rara. Cuando vaya a México la próxima vez, quiero hablar con los estudiantes de UNAM otra vez. Pero no necesito dormir con tarántulas otra vez.



メキシコ楽しい

馬場悠

工学部電子情報工学科進学



TLPでは言語習得を目標に日々努力していたが、2年の夏休みの間に実施される海外研修もまた一つのモチベーションの源だった。言語習得において会話することは必要不可欠だが、海外では不慣れな言語での対話に強制されるので言語習得における近道といっても過言ではないと思う。メキシコでの海外研修を通して多くの人々と文化に触れて刺激を得るという目的もあり、一年半の学習の成果を発揮するのが楽しみだった。しかし、周囲の多くの人は心配を吐露していた。麻薬組織や政権発足後の殺害事件、ニュースでは数多のメキシコの治安の悪さが顕になっているため、非常にネガティブな印象を受ける人は多いだろう。正直なところ、自分自身も少し不安が残ったまま日本を離陸した。メキシコに着陸したのは現地時間で午前10時ごろ。ホテルまでツアーバスで移動したが、路上ではtope（スピードバンプがバス）が至る所に存在していた。それらに上下に揺さぶられながらメキシコの道路では「何でもあり」なんだなという印象を抱いた。急な車線変更、失礼な割り込み、渋滞でのクラクション、やりたい放題だそう。その結果、道路に走っている車の多くも目立つ傷や凸凹が多く、正直それらの隣接した道を歩くのすら怖かった。しかし、その恐怖がなくなるくらい温かかったのはLa Brasa Ayuukというタコス屋さんの人々でした。いかにも常連のお客さんしか行かなさそうな店の雰囲気を出していたが、いざ入ってみるとものすごく丁寧に注文の仕方やソースの説明をしてくれて拙いスペイン語でもしっかり聴いてくれてうまく対応してくれた。メニューに書いているものすらわからない状態で、初めて食べた現地のはorden de

原付バイクに全員で乗ってる4人家族、左にウィンカーを出して右に曲がる車、荷台に寝そべるおじさん。将来メキシコで暮らすことになっても運転だけはできる自信がないです。

メキシコシティで9日ほど過ごしたホテルの付近は非常に居心地が良かったです。隣にコンビニがあり、少し歩けばスーパーや、美味しいタコス屋がありました。メキシコシティにいる間は、夕方までは現地の大学や博物館などのアクティビティ、夜は自由というのがほとんどだったのですが、この夜の自由時間がかなり激アツで、ご飯を食べに行った後、友達の部屋にみんなで集合して遊んだりというのが幸せポイントでした。ほぼ修学旅行みたいなものですね。

ご飯は2週間を通してハズレがなかったです。もちろんタコスは美味しかったですし、とはいえタコス以外も食べなきゃと思って適当にいろいろ頼んでみるのですが、全部美味しかったです。あと安い。ストリートフード的な感じで売られている物は基本的にかなり安いです。ですから、旅行先で食べ過ぎてしまう方は要注意です。

メキシコと聞くと治安を心配する人が多いですが、今回の研修で訪れた地区に関しては治安は全く問題なかったです。町もきれいでしたし、優しい人も多かったです。財布をお店に忘れて後で取りに行ったら保管してもらえていたという友達もいました。もちろん、他の地域ではそのようにもいかないのかもしれませんが、実際自分も少し治安は心配だったので、2週間を通して安全に過ごせて良かったです。

メキシコシティ生活の終盤に、現地の市場に行き値切りの術を習得する、というアクティビティがあります。市場はかなり異様な光景で、変な色や形の置物や、何に使うのかわからない道具、サソリやイモムシの入ったお酒の瓶、呪われそうな木造りのお面、ド派手なシャツなど、様々な物を売るお店が密集している地区です。ここでいろいろ見て、欲しい物があったらお店の人と話して値切りをするというものです。自分は実際、良い感じのリングを見つけ、300ペソを260ペソに値切れました。友達の話を見ると半額まで値切ってくれた

という話も聞いたので、スペイン語の会話力と値切りの話術と運があれば、いろいろなものがかなり安く帰るはずですよ。

メリダでの4日間も印象的でした。メリダに着くとまず暑さに迎えられます。メキシコシティは夏でも非常に涼しかった（体感だと大体東京の10月後半程度の気温）ので、急に暑くなりびっくりするのですが、ここでの生活も楽しいものでした。まずアクティビティが全部最高。セノーテという洞窟の水たまりで泳げる場所があるのですが、これがとても綺麗で、水は冷たくて気持ちよく、水に飛び込んだり友達とはしゃいだりと楽しかったです。また、メリダのビーチも最高で、真っ白の砂浜に水色の海、着いた瞬間から帰るときまでみんなテンション上がりまくりでした。また、メリダでの宿舎（マニ農民学校）での生活も印象的で、豊かな自然の中でインターネットも冷房もない中、自分で洗濯をしたり農業体験をしたりと、日本ではまず経験できない生活を強いられる4日間でした。良いデジタルデトックスになったような気がします。森の中なので夜は真っ暗で、星も綺麗に見えました。また熱帯の森の中ということで、サソリやタランチュラといった、日本ではまずお目にかかれない生き物との共存も楽しめます。このメリダでの4日は、メキシコシティでの生活とはまた一風違った経験ができ、非常に充実した4日間でした。

この2週間を通して、TLPスペイン語のメンバーとさらに仲良くなれたのはもちろんですし、そもそも友達と2週間過ごすというのが新鮮で楽しい経験となりました。1年半学んできたスペイン語を実際にメキシコで運用することで自分の成長を実感すると同時に、新たに課題も見えた2週間でした。また、海外での生活というのは、その国で話される言語の勉強になるのはもちろんですが、それ以上にその国の文化や、人々の考え方・価値観、生活の様式といったものを肌で感じることができるので、自分の中の「当たり前」が覆され、自分のこれまで生きてた中での考え方をグローバルな目線で相対化できるというのが大きいと考えています。実際今回のメ

キシコ研修を通して、新たな知見も得ることができ、新たな世界を知ることができたと感じています。終わってみればあっという間の2週間でしたが、とにかく楽しくて、とにかく充実していて、またメキシコに行きたいと思わせてくれるような2週間でした。

最後になりますが、今回の研修に関わってくださった引率教員、大学関係者、旅行会社の皆さまには改めて感謝の意を表します。またTLPスペイン語のメンバーのみんなにも感謝しています。この研修は一生忘れない思い出になるとと思っています。

Mi Experiencia en el Viaje de Estudios a México

Haruka Baba

Tuve la suerte de participar en un viaje de estudios a México, que fue una experiencia intensa e inolvidable. Pasé dos semanas descubriendo la cultura, las costumbres y el idioma junto con mis amigos y compañeros. Este viaje fue la razón principal por la que me esforcé en aprender español y mejorar mis calificaciones.

Al llegar a la Ciudad de México, noté que el ambiente era muy diferente al de Japón. Era interesante y a veces divertido ver estas diferencias.

Durante la estancia en Ciudad de México, disfrutamos de muchas actividades culturales, como visitar museos y la universidad local. Por las noches, teníamos tiempo libre para explorar la ciudad, probar comida deliciosa y reunirnos en las habitaciones de los amigos para charlar y jugar, creando recuerdos especiales.

Luego, viajamos a Mérida, donde el clima era más cálido y el paisaje completamente distinto. Disfrutamos de la naturaleza en su máximo esplendor, nadando en cenotes y visitando playas de arena blanca y agua cristalina. También experimentamos la vida sin internet y aire acondicionado, lo cual fue un gran cambio, pero pudimos conectar mejor con el entorno.

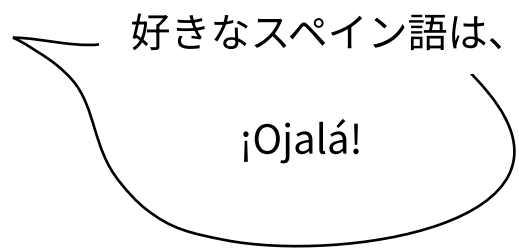
Durante estas dos semanas, tuve la oportunidad de poner en práctica mi español y sentir que mis habilidades mejoraron. Fue una experiencia importante, no solo por aprender el idioma, sino también por la inmersión en una cultura diferente. Esta experiencia me hizo ver el mundo con una perspectiva más amplia y sin duda despertó en mí el deseo de regresar a México en el futuro.



二つの壁画

松井新

工学部建築学科進学



メキシコシティ空港に到着後、ホテルまで向かうバスから眺める街並みはアートに溢れていた。窓の奥で景色が流れていくなか、道路沿いの壁を飾る絵はフリーダ・カーロのカラフルな肖像画から、スプレー缶での簡単なタギング、ブロックバスター映画であるにも関わらず手書きで描かれた新作映画の広告へと移り変わっていった。壁を埋めるのはストリートアートだけでなく、大企業や政党による広告でもあり、それらの流れはアート、グラフィティ、広告といったメディアの連続性を想わせるのであった。そしてその景色は何よりも、メキシコにおいて壁画という文化がいかに街の細部まで染み込んでいるかを印象付ける景色であった。

この報告書ではメキシコ研修で出逢った数多くの壁画作品の中から、私にとって最も印象的であった作品を二つ選び、紹介していきたい。一つはメキシコ国立自治大学の中央図書館を取り囲むファン・オゴルマン作の「Representación histórica de la cultura」、もう一つは国立人類学博物館内にあるルフィーノ・タマヨ作の「Dualidad」である。

A. Juan O'Gorman, Representación histórica de la cultura

私達が一週間学んだメキシコ国立自治大学のキャンパスは多くの壁画作品に恵まれていた。キャンパスマップによればその数は十作以上であり、作品はあらゆる棟の外壁に描かれていた。中央図書館を飾る「Representación histórica de la cultura」は中でも最も有名な作品であり、東大における安田

講堂のように自治大学を象徴する存在である。直方体の中央図書館は多色のモザイクタイルによって覆われていて、その絵はメキシコ文化に現れる豊かな象徴とともに先スペイン時代の歴史を物語っていた。

自治大学のキャンパスは、合理主義的なモダニズム建築と壁画文化の異例的な融合がみられる世界唯一の場所である。留学最終日に開かれたメキシコ美術史の講義では、キャンパス内で見られる建築物についてそのように解説された。実際にキャンパスはモダニズムの提唱した水平性や開放性が意識されたデザインで構成されていると同時に、その広々とした空間は堂々と描かれる壁画により区切られていた。この二つの概念はキャンパスにおいて必ずしも自然に混ざり合っているとは言えないかもしれない。壁画の存在感がモダニズム運動の掲げる開放性を損ねていると論じることもできるだろう。しかし、この異例的な融合は植民地時代の過去を切り捨て、近代化に進むとともにメキシコ人であるアイデンティティを新しく確立しようと決心した、当時のメキシコ人建築家たちのみが構想できたものとして貴重であった。

一方で、キャンパス内の壁画の中でもオゴルマンによる中央図書館は建築と壁画の融合を最も美しく成し遂げた作品のように感じられた。メキシコ原産の天然石のモザイクアートとして構成されている壁画は中央図書館の背景に自然に溶け込んでいて、大胆な表現を用いることで壁からどうしても浮き上がってしまう他の作品とは明確に異なっていた。中央図書館の建築家兼画家を務めたオゴルマンは後にモダニズム建築から離れていき、地域主義や造形的統合といったテーマのもとで建築を進めていくが、そこでも中央図書館で始めたモザイクタイルの利用を極めていく。オゴルマンの中央図書館はメキシコ近代化という時代背景の産物であると同時に、メキシコ人建築家たちがそれ以降に取り組む試みの第一歩としても捉えられる美しい作品であった。

B. Rufino Tamayo, Dualidad

同じく印象的であった壁画作品は、国立人類学博物館に収められているルフィーノ・タマヨ作の「Dualidad」である。博物館に入って右手にひっそりと掛けられているこの壁画はメキシコ文化にとって象徴的な二つの動物、蛇とジャガーの戦いを描いている。後に自治大学の美術史の講義にて学んだのだが、政治と美術の分離を強く主張していたタマヨは、革命家と親密な関係にあった壁画運動と距離を置いて活動していた。人類学博物館に飾られるこの作品はタマヨの描いた数少ない壁画の一つであり、残りの滞在で目にした作品と比べて異質な雰囲気を感じていた。

タマヨの壁画が同時代の作品と比べて異質に感じられた理由の一つとして、作品の展示方法がある。メキシコ市中で遭遇した作品の多くは、鑑賞者を圧倒することに躊躇いのないかのように聳え立ち、首を傾け、視線を上げないと全貌が掴めない大きさで描かれていた。一方、人類学博物館の「Dualidad」は壁画にしては小規模であると同時に、メインロビーから引込んだ部屋において控えめに照らされ、鑑賞者を包み込む空間と一体化していた。それはまるで遺跡に埋もれていた壁画のようであり、作品に描かれる神話的な題材、荒々しいテクスチャ、タマヨ自身の考古学への関心もその遺跡らしさを際立てた。

よくメキシコの壁画文化はメキシコ革命において、メキシコ人であるアイデンティティを民衆に啓蒙するために生まれたと語られる。しかし、この作品からはタマヨによる別の見解が読み取れた。すなわち、タマヨにとっての壁画とは革命家がナショナリズムを創生するために取った単なる手段であったのではなく、古代メキシコ時代からすでにメキシコのアイデンティティを構成してきた遺産のような存在であった

のではないか。メキシコ最大規模の考古学博物館の入り口に立つこの作品は、そう訴えかけているようであった。

メキシコは数多くの文化遺産・芸術作品に溢れた国である。この二週間で決してその全てを見られたわけではなく、鑑賞した作品の背景や価値を十分に理解できたとも言えない。滞在の最終日には幸運にも学芸員を目指す現地大学生がベジャス・アルテス美術館を案内してくれたのだが、そこではオゴルマンやタマヨに対する現代的な評価を教えてもらった。本稿ではメキシコ人のアイデンティティを描き上げた作家として紹介したが、彼らの作品は先住民文化に対する強引な理解に基づいていると批判されることも多いそうだ。今回の研修を一年半のプログラムの終点として捉えるのではなく、メキシコ文化への第一の接点として今後も学習を続けていきたい。

Dos Murales

Arata Matsui

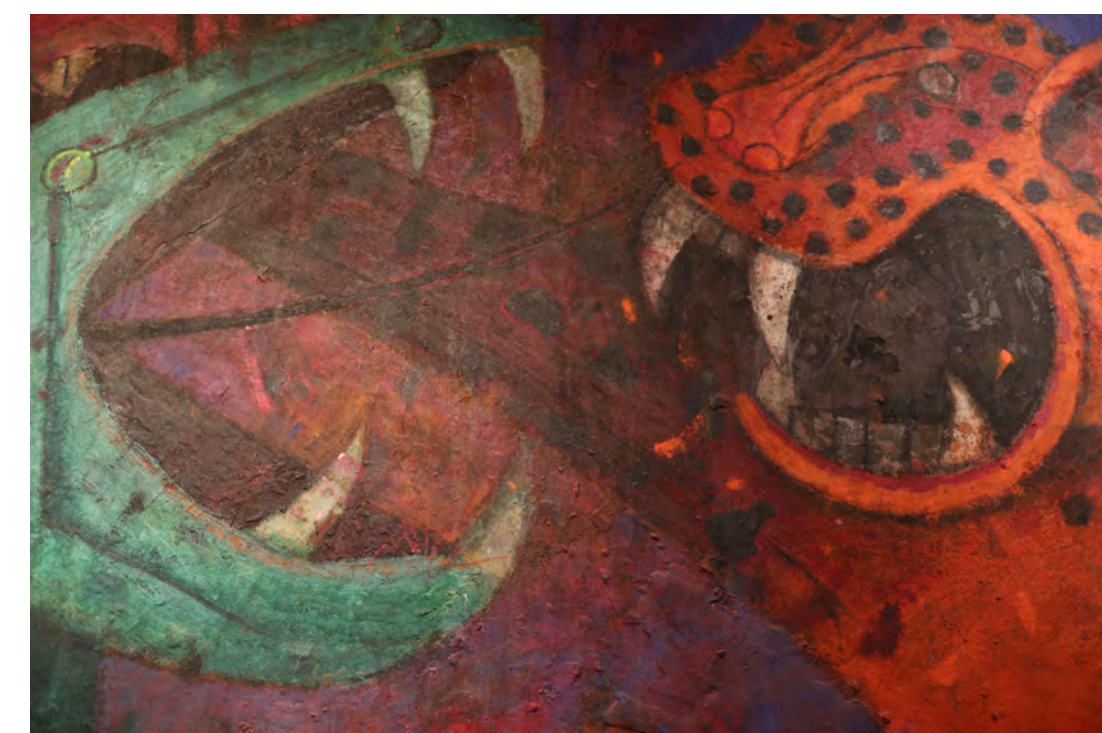
Las dos semanas en México me pareció que pasaron pasar muy rápido, así todos los días encontramos un lado nuevo de la cultura diversa de México. Un elemento de la cultura que veíamos muchas veces era la tradición de murales. Murales aparecían a todas esquinas de CDMX, en las calles, edificios públicos y museos. En este ensayo, me gustaría presentarte dos obras que me interesaron profundamente durante la visita; la primera es "Representación histórica de la cultura" de Juan O'Gorman decorando la Biblioteca Central de la UNAM. La segunda es "Dualidad" de Rufino Tamayo situado dentro del Museo Nacional de Antropología.

a. Juan O'Gorman, "Representación histórica de cultura"
Situado en el campus de Ciudad Universitaria de la UNAM, la Biblioteca Central y su obra acompañando tienen estatus simbólico entre muchas otras obras que se pueden encontrar en el campus. Su cuerpo rectangular es decorado con pequeños mosaicos multicolores que se unen para pintar la historia prehispánica de México lleno de simbolismo. Me parece el mural impresionante porque desaparece entre la arquitectura; aunque otras obras del campus también probaron unirse con la arquitectura moderna, la fusión es realizada más bellamente aquí.

b. Rufino Tamayo, "Dualidad"
Ocultado en la entrada del Museo Nacional de Antropología, "Dualidad" de Rufino Tamayo tenía un aura distinta de otros murales que encontraría en el viaje. Su presentación era sutil, diferente de las grandes obras de los muralistas que pueden ser intimidantes. Todo la presentación tranquila, la pintura mitológica de dos animales luchando y la textura me recordaron los murales que vería después en Teotihuacan. Me parece que

Tamayo quería recalcar la importancia de los murales más allá del movimiento político y en relación con la historia antigua de México.

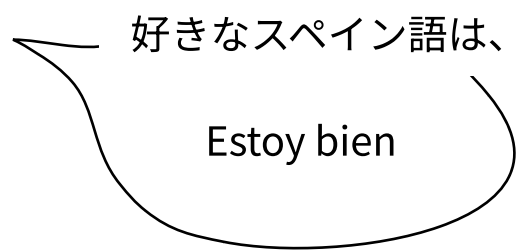
Nuestra visita definitivamente fue demasiado corta para entender la complejidad de la cultura. Querría no ver esta experiencia como el final de un programa y seguir aprendiendo la cultura y las artes mexicanas.



温もり

松井響

経済学部経済学科進学



特に何も考えず姉の影響でTLPコースを私は選び、なんとなく周りの優秀な生徒に影響されてスペイン語の勉強を頑張っていたら、最後までTLPに残ることができた。同じクラスの人が2年生にはスペイン語の授業がもうなくなるという話を聞いたり、週4,5回もスペイン語の授業を受けて何がしたいのと友人にいじられたりする中で、何度もTLPにならないほうがよかったなと思っていた。しかし、TLPを修了した今振り返ってみると、素敵な友達と本当に貴重な経験ができ、真摯に語学勉強と向き合うことができた。入試を終えた3月のあの時の選択は間違っていなかったのだろう。

9月1日、僕は部活のリーグ戦期間にメキシコ研修が被っていてあまり前向きな気持ちを持てずに成田空港へと向かった。過度な人見知りであるが故に、半数の全く知らない理系クラスの人たちを見て再び帰りたい気持ちが募っていた。しかし、帰れるはずもなくメキシコへと旅立った。長いフライトを経て、メキシコに降り立った。当時30度だった東京とは打って変わって、肌寒いメキシコシティの外気に顔を打たれながら、まずはみんなで入国検査へと向かった。その時、ふと気づいたことがあった。歩く中、耳に飛び込んでくるスペイン語は全く聞き取れなかったのだ。現地の人の話すスピードに驚愕していた。もうこの2週間はパッションで乗り越えるしかないと心に決めた。なんとか、入国審査を通過したがまだ試練は思わぬ所に待っていた。それは両替だった。空港をですぐのところでドルからペソに替えた。見たことのない紙幣を手にし、浮かれながら一枚一枚眺めていった。あれ、明らかに足りてなくね。そう直感的に思い数え直すと

あるべき額より少ない紙幣が渡されていた。メキシコについてすぐ思わぬ洗礼を受け動揺しながらも平静を装い教員の方々に相談した。すると、大きな頼り甲斐のある背中を見せながら両替の店へと向かってくれた。そして帰ってくるその先生の手には不足分のペソがあった。（これからメキシコに行く人は気をつけて欲しい。）そんなこんなでようやく、僕のメキシコ研修が始まった。

2週間のステイのうち、最初の1週間はメキシコシティ郊外にあるメキシコ国立自治大学にある外国人が勉強するためのような施設で勉強する。そのため、中心地からはかなり離れた場所にあるホテルに泊まる。ホテルには空港から貸切バスで向かった。バスが通り過ぎていく街並みには心を打たれた。道は凸凹で、ボコボコになったタクシーが走っている。そして道にはボロボロになった服を着ている人がある。日本では当たり前となっていることが当たり前ではなかった。ホテルに到着。部屋が汚いのではないかという僕の心配を裏切るかのような、綺麗で清潔感のある広い部屋が僕を迎えた。同じ部屋になった人が優しくて、気さくに話しかけやすい人ということもあって、特に問題もなく1日目を終えた。

そこから1週間、午前は大学でスペイン語の授業を受けて、午後は現地の学生と交流をしたり、博物館にいたり、歴史地区を訪問したりと観光をするという日々が続いた。この1週間、毎日幾度となく実感していたのは現地の人々の優しさだった。ホテルの近くのスーパーで会計をした時、店員さんは満面の笑みで話しかけてきた。拙いスペイン語で返答する僕を受け入れてくれているかのように、日本人？学生さん？メキシコはどう？と会話を繋げてくれた。そんな優しさに身を包みながら僕は店を後にした。今度は屋台でご飯を買った時のことだ。そこで、どんなものが売っているのか分からず、ただ眺めている僕のもとに先に購入を済ませた現地のお客さんが近づいてきた。何をされるか分からず身構えていると、彼は一つ一つ商品の説明をしてくれた。日本で外国人が困っていたら同じように気さくに話しかけ手助けするの

かと考えてみたが、はっきりイエスとは言えなかった。メキシコ人のフレンドリーさを体験するとともに、自身の未熟さも痛感する瞬間だった。他にも親切に対応してくれるタコス屋の店員、ショッピングモールで僕に手を振ってきた小さな女の子、まだまだ話したいエピソードはあるが、そんな僕を字数制限が阻んでくるのでここら辺でこの段落は一区切りにする。

毎日、膨大なスペイン語が降りかかってくる大学での授業をなんとか乗り越え、理系のTLPの人とも打ち解けてきたところでメキシコでの最初の1週間は終わった。まだ、1週間かと思うほどの色んなことを思われる濃厚な1週間だった。その中で1つ心に響いた話をここでして、2週目へと突入したいと思う。授業を終え、午後、日本語を学んでいる現地の生徒たちと交流するイベントがあった。どんな人たちと話せるのか楽しみとを感じるべきなのだろうけど、相変わらずの人見知りを発揮し始めるまではあまり前向きな気持ちではなかった。そんな気持ちのまま、交流会は始まる。自由に話してねと、大きな空間にTLPの生徒と現地の生徒が放り込まれた。ずいぶん雑だなと思いながら、勇気を振り絞って、向かい側にいた男性に話しかけてみた。彼らは笑顔で僕を輪に入れてくれ、話したいという気持ちを駆り立てた。会話が弾む中で出身はどこなのかを聞いてみた。ユカタン半島というかなり大学からは遠い場所の貧しい地域からやってきたと打ち明けられた。もう少し近い大学はなかったの？と、これから自分が心を打たれる話を聞くことになるなんてつゆ知らずに軽い気持ちで聞いた。すると彼は襟をただして、それまでにこやかに笑いながら話していたのが嘘かのような、真面目でまっすぐな目で僕の方を見て、話し出した。僕の家庭は決して裕福ではない。だから、いい大学でたくさんのことを学んで、いい仕事について、家族に贅沢をさせてあげたいんだと。この短い、たった2文に彼のものすごい覚悟を感じた。 両親への敬意を込めて貧しいと言いきらずに決して裕福ではないと表現したのだろうか。そこに僕は彼の温かさ、

そして家族愛を感じた。それだけではない。大学に通うことの明確な目的。そんなものは僕にあるだろうか。大学に行けて当たり前、未来なんていい感じにうまくいくだろう。そんな自分の考えの甘さを感じた。この時抱いた感情を日本に持ち帰り、今でも大事に心にしまっておいてある。それからの大学で姿勢は大きく変わった。授業はしっかり聞いて、メモも適宜とる。学びたくても色々な事情で学べない人がいることを思うと、当たりの行動だと思うが、昔の自分と比べたら大きな進歩だと思う。メキシコ研修で得られたものは大きかった。

では、2週目の話をしようと思ったところだが、明らかに字数が足りないので割愛することになってしまった。他の生徒がマニの農民学校での生活について触れていると思うので、彼らに頼ろうと思う。

この研修を通して、会った人はみな笑っていたような気がする。日本人にはない温かさを常に彼らから感じた。困っている人がいたら、人種を問わず話しかけに行く。彼らはどんな状況に自信が置かれていたとしても助け合いの心を持ち、その時その時を楽しんでいるような気がした。また、今の日本での僕の生活は当たり前ではないということに気付かされた。今自分のいる環境に感謝しなければならない。こんな気持ちを持ちを常に念頭に置いて、これから人として成長できるように努力していきたい。

今、TLPを選択するか悩んでいる人、継続するか悩んでいる人、研修に行くか悩んでいる人、全員に伝えたい。メキシコには人生を変える出来事が待っている。

La Vida en Mani

Hibiki Matsui

¡Hola, bienvenido!

Así nos saludaron los profesores de U Yits Ka'an con una gran sonrisa. Es una escuela de agricultores en Maní, Yucatán. Nos quedamos allí cuatro días y tres noches. Hacía más de 30 grados y no estaba seguro de poder dormir en aquel lugar tan caluroso y húmedo. Primero les indicaron sus habitaciones. Para ser sincero, al principio me preocupaba el desorden de la habitación. Había telarañas y un murciélago en el techo. Me preocupaba saber si podría sobrevivir en un lugar así durante cuatro días. Sin embargo, mis temores desaparecieron gracias a la deliciosa comida y a la amabilidad de la gente de la escuela campesina, incluido el padre.

Cuando se les preguntó qué era lo que más recordaban, seguro que responde lo más memorable es la comida. Comimos muchas comidas tradicionales que estaban muy deliciosas. Los tacos con tomates, cebollas y aguacate frescos locales fueron uno de los favoritos. Era tan fresco que nunca lo había probado en Japón. Volví a Japón y yo mismo he cocinado tacos varias veces. No puedo cocinar que supiera tan bien como lo que comí en México, especialmente en U Yits Ka'an. Sé que todos están contentos con la comida incluido los tacos. Les agradezco que preparen nuestras comidas con esmero todos los días. Me gusta mucho la personalidad de las personas en la escuela. Mientras escribo esto, ¡quiero volver a U Yits Ka'an para comer y conocer a gente muy amable!

No sólo comimos, pero aprendimos muchas cosas en U Yits Ka'an. Allí aprendimos sobre apicultura, agricultura y medicina tradicional local, etc. Aprendí cosas nuevas que no habría aprendido en Japón. Utilizaban productos de

origen natural en lugar de fertilizantes y pesticidas químicos, que son la corriente dominante en Japón. Además, los medicamentos se tomaban de la naturaleza, lo que era una experiencia extraordinaria.

La estancia de cuatro días terminó en cuanto me di cuenta de que había terminado Pero estaban unas arañas, unos escorpiones y muchos bichos, pude pasar un buen rato con los estudiantes de TLP y las personas de U Yits Ka'an.

Yo recomiendo a todos estudiar en TLP con buenos profesores e ir a México. En México pueden experimentar muchas cosas desconocidas y llevarse bien con muchos amigos amables.

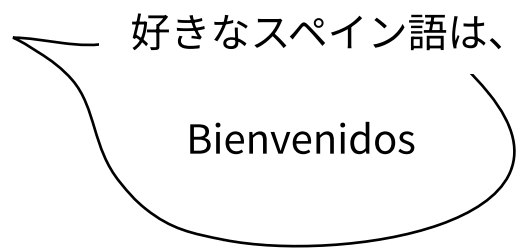
Por último, me gustaría dar las gracias al profesor. Gregory y a la Sra. Sayaka por planificar esta formación y ayudarnos a los estudiantes durante el viaje. ¡Ánimo!



驚きと発見の二週間

松原梨夏

法学部進学



私は1年生のSセメスターからTLPに参加し、今回のメキシコ研修を楽しみにスペイン語の授業に取り組んできた。しかしずっと楽しみにしていた一方で、直前までメキシコの具体的な行き先も知らなかった上に、旅程の説明を受けた後も自分で特に調べもせず、ほとんど何もわかっていない状態で日本を出発してしまい、不安の気持ちも大きかった。そんなワクワクとドキドキの中で始まったメキシコ研修は、毎日が新しい驚きと発見に満ちており、今となってはあっという間に感じられるほど充実した時間だった。この報告書では私が今回の研修で驚いたことや印象に残ったことをいくつか紹介したい。

まず一つ目に驚いたことは、日本とメキシコの食文化の違いだ。レストランで食事をするだけでも驚きがたくさんあった。日本ではレストランなどでご飯を食べるとき、飲み物を何も頼まなくてもサービスで水を出してくれるのが一般的だと思う。しかしメキシコでは水は頼まないと出てこない。また、「水をください」と頼んでも、「何の水ですか?」と聞かれてしまって戸惑った。メキシコでは“agua de jamaica（ハイビスカスの水）”や“agua de horchata（お米とシナモンの水）”のように味がついている水が定番だった。CEPEのEstefany先生が薦めてくださった"agua de jamaica"を試したところ、味は少しぶどうジュースに似ていて、甘くてさっぱりした味でたいへん美味しかった。“Agua de horchata”も試してみたが、とても甘くて私はどうしても苦手だった。しかしCEPEの生徒は“Agua de horchata”をおすすめしてくれていたもので、現地の人には非常に人気がある

ようだ。他にもUNAMの学食で“agua de pepino（きゅうりの水）”が提供されたが、さまざまな野菜やフルーツを水につけて日替わりの水が提供されるのが普通のようなだった。日本では水といったら何の味もついていない普通の水しか想像しなかったのが驚いた。メキシコの人は何もつけていない水を飲む機会が少ないのだろうか。

他にも、トルティーヤの定番さに驚いた。何か料理を注文すると、ほとんどの料理にはトルティーヤがセットで提供され、特にスープにまで揚げたトルティーヤが刺さっていることに驚かされた。レストランやマニ農民学校でも、テーブルにトルティーヤがたくさん入ったカゴが置かれており、常にトルティーヤが登場した。タコスなどトルティーヤを使った料理がメジャーなことは知っていたが、他の料理のサイドとしても提供されるようなものだとは知らなかった。メキシコ人にとってのトルティーヤは、日本人にとってのお米みたいなものなのかなと思った。メキシコで二週間過ごしても、食生活は慣れなかった。日本にはない料理をたくさん食べられるのは楽しかったが、食事の時は普通の水を飲みたいなど思ったし、トルティーヤも最後の方は飽きてしまった。メキシコで驚いたことの二つ目は、現地の方がとてもフレンドリーに接してくれた点だ。特にUNAMで現地の学生と交流したときは、私たち日本人と交流したいと思って会いにきてくれた人がたくさんいて本当に嬉しかった。メキシコ研修最終日には早起きをしてプランを組んでまでソチミルコに連れて行ってくれた。道中でもJ-popやアニメの話で盛り上がり、お月見をした話をしてくれたり、日本文化への興味と愛情が伝わってきたことが印象深い。彼らとの交流を通じて、日本とメキシコの文化の違いや共通点を発見し、国を越えた友情を築く喜びを感じた。帰国後も連絡を取り合える友人ができたことは、今回の研修がもたらしてくれた貴重な宝物である。

また、マニ農民学校での生活も、メキシコの温かい人々との交流を深める経験であった。私には農民学校の環境がどう

しても合わず、2日目の朝に体調を崩してしまったのだが、その時の農民学校の人々の温かさに救われた。私は他のみんなが説明を受けている間に別室で休憩していたのだが、その時にPadreがずっと側で寄り添ってくれていた。Padreはかつて日本を訪れたことがあるらしく、その際のエピソードや楽しかった思い出をたくさん話してくれた。スペイン語でコミュニケーションを取るのは難しく、お互いの言っていることがなかなか伝わらないこともあったが、言葉が完全には通じない中でも、彼は終始ニコニコと笑顔を絶やさず、何度も根気よく私と会話をしてくれた。その後も、観光から農民学校に戻ると必ず「体調は大丈夫か」「観光は楽しかったか」などと声をかけてくれた。メキシコで出会った温かい人々との交流は、今回の研修の中でも特に心に残るエピソードであり、異国の地での他者の親切がどれほど心強いかを改めて実感させてくれた。

他にも、観光で街を歩いているときや、レストランでご飯を食べているときにたくさんの現地の方に声をかけられた。アジア人が珍しいのか、一緒に写真を撮って欲しいとお願いされることが多かった。日本でスペイン語を勉強しているだけではなかなか現地の方とコミュニケーションをとれる機会はないので、今回は習ってきたスペイン語を実際に活かせる機会が多く、とても貴重な体験になった。私の拙いスペイン語を頑張って理解してくれようとする姿がありがたかったし、逆にメキシコの方にも日本に興味を持ってもらえていることが知れて嬉しかった。

メキシコでの研修を通じて、実際に現地を訪れなければわからないことがいかに多いかを痛感した。日本でスペイン語を学んでいただけでは決して感じ取れない、メキシコの空気感や、現地の人々の温かさ、文化の違いや自分の言葉でコミュニケーションをとる喜びを味わえたのは貴重な体験である。また、日本と異なる文化に触れたことで、逆に日本ならではの良さも再発見することができた。すべてが新鮮で驚きに満ちた2週間は、私にとって非常に有意義であり、この経

験を糧にさらに学びを深め、今後も新しい視点から世界を見ていきたいと感じた。

Mi Estancia en México

Rika Matsuhara

Desde mi primer año en la universidad, participé en el programa TLP y tenía muchas ganas de realizar una estancia en México. Las dos semanas que pasé allí fueron una experiencia maravillosa, llena de sorpresas y descubrimientos. Aunque al principio estaba un poco nerviosa, pronto me di cuenta de que sería una experiencia inolvidable y única.



Durante mi estancia, lo que más me sorprendió fue la cultura de la comida en México. En Japón, el agua en los restaurantes es siempre natural y sin sabor, pero en México era común que nos sirvieran agua aromatizada, como el "agua de Jamaica" o el "agua de horchata". Al principio, no sabía qué esperar, pero cuando probé el agua de Jamaica, me gustó mucho; era refrescante y tenía un sabor similar al jugo de uva. Me gustó y decidí comprar un poco para llevar a Japón. También me llamó la atención que, en cada comida, las tortillas acompañan todos los platos, como el arroz en Japón. Esto mostró lo importante que es la tortilla en la vida diaria de los mexicanos y cómo forma parte de cada comida.

Otra cosa que me impresionó fue la calidez de la gente mexicana. Los estudiantes de la UNAM, que estudian japonés, nos recibieron con mucha amabilidad y estaban muy interesados en conocer nuestra cultura. Nos saludaron con sonrisas y mostraron interés en hablar sobre anime japonés, J-pop y temas de Japón. Al final de nuestra estancia, se levantaron temprano para llevarnos a Xochimilco. Fue una experiencia divertida y un recuerdo especial que siempre guardaré. Al despedirnos, intercambiamos datos de contacto y, hasta hoy, algunos de ellos me escriben, lo cual me hace muy feliz. En Maní, también tuve una experiencia especial cuando Padre me ayudó mucho mientras estuve enferma. Como mi español no es muy bueno, a veces era difícil comunicarme, pero él siempre me escuchó con paciencia y me ayudó en lo que pudo. Esta experiencia me enseñó que no siempre es necesario hablar perfectamente el mismo idioma para conectarse con otras personas. La amabilidad de Padre y de todos en la escuela me conmovió mucho.

En conclusión, esta experiencia en México me ayudó a comprender más sobre otras culturas y a ampliar mi visión del mundo. Fueron quince días llenos de momentos especiales que nunca olvidaré, y ahora tengo aún más motivación para continuar estudiando español y regresar a México algún día para seguir fortaleciendo estos lazos de amistad.

写真には映らないあの人たちの厚意

宮川貴浩

教養学部教養学科進学



多くの旅がそうであるように、このメキシコ研修も数々の喜びや感動、そして少しの反省とアクシデントに彩られた、味わい豊かなものだった。そんな濃密な二週間だったから話題にはこと欠かないが、今回の報告書では、きっと何年経っても忘れず、目を閉じればすぐに海を超えてあのときの空気を肌で感じられるような、そんな特に印象深い思い出について書こうと思う。

夜の空港はカオスだ。成田空港での集合時間が早かったから、朝の弱さに定評のある私は、前日の夜に空港に行き、そこで夜を明かすことにした。本当のことを言えば、友人もそうすると言っていたから、空港に泊まるという映画でしか見たことのない非日常を仲間と一緒に過ごしたかったということのほうが、理由としては大きい。夜の空港には思ったよりも人が多くて、少し驚いた。ソファのような椅子があればよかったのだが、残念ながらそのようなものはなく、椅子が三つ連なった硬いベンチで寝ることにした。夜がふける頃には爆音で某国語の放送を流しながら酒盛りを始める人もいて、熟睡できたとはいいがたいが、面白い経験だった。忘れがたい記憶を機内に持ち込み、メキシコへと飛び立った。

メキシコでの活動として、まず国立人類学博物館見学を紹介したい。何千年も前に作られたものが手で触れられる距離に遮蔽物なしで置かれていて、本当に？ いいの？ という気持ちになった。やはり、古代の人々との時空を超えた対話には、全身を突き抜けるような感激がある。中でも一番興奮

したのは、世界史選択者なら一度は教科書や図説でお目にかかったことがあるであろう、オルメカ文明の巨石人頭像だ。学ぶ対象としてあちら側にいた存在が、実体験としてこちら側にやってきた瞬間だった。

現地学生との交流は、一番楽しみにしていたイベントだ。正直なところ夏休み中に十分な準備ができていたとは言えず、スペイン語で日常会話ができるレベルには程遠かったが、まずは物怖じせず外国語を使ってみることにチャレンジできればよし、という気持ちで望んだ。結果、現地学生たちの気遣いのおかげもあって、楽しい時間を過ごすことができた。何人かの学生とは、インスタグラムを交換した。インスタはアカウントを作っていたものの普段はほとんど使用していなかったが、外国の人と連絡先を交換するときはインスタになることが多いので、作っておいてよかったと思う。会話で一番困るのは、語彙の少なさだった。ごく簡単な内容なのに、言いたいことがうまく言えない。また、知っているはずの言葉でも、いざその場で話そうとするとなかなか出てこない。スペイン語に限らず多くの外国語学習者が苦勞するであろう動詞の活用は、まだいちいち頭の中で活用させてから発言する段階で、話すのに時間がかかったのも悔しい点だ。この場では、初めての昆虫食も体験した。スペインではchapulinesというイナゴの一種を用いた昆虫食が有名だが、私が食べたのはそれではなく、小さなコオロギのようなものを乾燥させた食べ物で、最初にすすめられたときはお菓子かと思った。クセがなくサクサクした食感で、さほど抵抗なく食べることができた。話をした学生のうちの一人が、古い硬貨をくれた。これだけでもとても嬉しかったのだが、彼は後にさらなる思い出を私にしてくれることになる。

マーケットでの買い物、我々学生のうちの何人かが現地の人々と踊りを踊ったコヨアカン広場観光、テオティワカン遺跡訪問などを経て、後半一週間はメキシコシティを離れユカタン半島に滞在した。宿泊したマニ農民学校では初めてハンモックで寝てその快適さを味わったり、みんなで地面に寝転

がって星空を眺めたりした。セノーテでは洞窟の中で泳ぐという、他ではなかなかできない体験ができたし、海水浴に訪れたビーチは見たこともないほどきれいだった。自然を大いに満喫した一週間だった。ユカタン半島では他にも、日本にいたらなかなか経験しないような出来事が数々起こった。これについてはきっと仲間たちが書いてくれると思うから、ぜひ読んでみてほしい。中でも自分にとって特に思い出深いのは、現地の子どもたちと写真を撮ったことだ。観光している我々の姿を認めた地元の子どもたちが興味深そうにこちらを見ていたので、私たちは彼らに声をかけにいった。すぐに打ち解けることができ、一緒に記念撮影をした。仲間のうちの何人かは、プレゼントにおもちゃのようなものをもらって、お返しに日本の硬貨を渡していた。お互いにとって、未永く思い出になるといいなと思う。

ユカタン半島で心残りだったのは、疲労や昼夜の温度差であまり体調がよくなり、現地の人々とほとんど話をしなかったことだ。せっかく農民学校には色々な人（マヤ語を話せる人も！）がいたのだから、異文化交流の点でもスペイン語の練習の点でも、もう少し話をしておけばよかったと思う。メキシコシティに戻った後、最終日、空港に向かうまでの時間で前半に会った現地学生と過ごす自由時間がある。今度こそ体調を整えてそこで積極的に相手に話しかけようと決意し、ユカタンを後にした。

そして迎えた最終日、先日私に硬貨を贈ってくれた学生がインスタで連絡をくれたので、出発までの時間を二人で過ごすことに。いくつか提案してくれた中から、気になっていたチャプルテペック城に連れて行ってもらうことにした。城は広大な公園の高台に建っていて、園内ではリスも見ることができた。入口でCEPEの学生証を見せると、なんと入場料は無料！ 場内は見回るのが大変なほど広く、展示は博物館も顔負けの充実度だった。御存知の通り、メキシコはスペインの征服を受けており、複雑な歴史をもつ。それはCEPEの授業でも習った通りだ。その今日に至るまでの過程がきらびや

かな王族の宝石類と並べて展示されているのを見ると、メキシコの人々は自国や他国についてどのように思っているのだろうと、一層深く考えさせられた。

城の観光後、私が家族へのお土産にワインとオアハカチーズを買いたがっていると知ると、彼はそれらが置いてある店を調べて、そこまで私を連れて行ってくれた。彼のおかげで無事お土産を買えただけでなく、道中ではコーヒーまでごちそうになってしまった。そして最後には、集合時間にきっちり間に合うように、私をホテルまで送り届けてくれたのである。彼の優しさに感激して私が感謝の意を伝えていると、彼の口から「タカヒロ、君にお土産があるんだ」との言葉が。ここまでよくしてもらった上に、まだプレゼントが！？ それは、スペイン語の本だった。最初に会ったときに、二人とも読書が好きだということで話が盛り上がったからだろう。包み紙には、彼から私へのメッセージが書かれている。こんなにうれしい贈り物はなかなかない。彼は、いつか日本に来たいと言っていた。そのときには私が東京を案内して、彼に本を贈ろう。

日本に帰ってきて一月半が経った。スペイン語の勉強は自分で続けようと思いつつ、新学期が始まると、忙しさに押し流されてなかなか実行に移せていない。それでも、机の横を見れば、そこには変わらず彼からのメッセージがある。彼からもらった本が読めるように、そして、次会ったときにはもっとうまく話せるように。スペイン語への情熱を私が失うことはないだろう。

¡Nos Vamos!

Takahiro Miyagawa

Lo más memorable del viaje de estudios fue el intercambio con un estudiante local. Hablé con él en la primera mitad del viaje e hicimos turismo juntos el último día. Él fue muy amable y no sólo me recogió y me dejó en mi hotel, sino que también me llevó al Castillo de Chapultepec y a las tiendas donde podría comprar los souvenirs que quería vigilando la hora para que pudiera llegar a tiempo a la reunión. Además, cuando nos despedimos, ¡me regaló un libro en español con un mensaje! Congeniamos porque a los dos nos gustaba leer. Supongo que lo recordó. Eso me emocionó. El vocabulario en las conversaciones cotidianas es diferente del de las clases, y escuchar es difícil. Sobre todo, aunque había estudiado español durante un año y medio, me costaba comunicarme con él. Sin embargo, él siguió comunicándose conmigo pacientemente. Se lo agradezco mucho. Es cierto que podemos transmitir nuestros sentimientos sin palabras, como a través de gestos u obras de arte, pero es maravilloso poder expresar nuestros pensamientos con palabras. Quería mejorar mi español. Me regaló dos libros en español, así que quiero poder leerlos, y dijo que le gustaría venir a Japón algún día, así que quiero mostrarle Tokio entonces.

Una que lamentamos en este viaje fue no poder ver los actos del Día de la Independencia de México. Por desgracia, tuvimos que regresar a Japón unos días antes de ese día. Cuando estuvimos allí, ya había un ambiente festivo con banderas nacionales izados en las ciudades. El día debió de ser muy emocionante. Quería vivir el ambiente del Día de la Independencia, ver qué recuerdos y comida se vendían, cómo estaban decoradas las ciudades y escuchar lo que pensaban los mexicanos. Pero tal vez sea mejor dejarlo para otra ocasión. Puede que vaya a México otra vez, y espero que así sea. No sé qué harán todos en el futuro, pero cuando lo haga, sería maravilloso que los

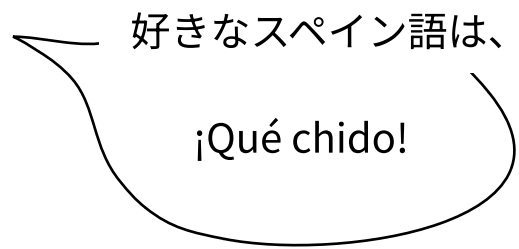
amigos con los que viajé esta vez estuvieran conmigo, y también me gustaría volver a ver a los estudiantes locales con los que intercambié. ¡Por supuesto, también quiero hablar mejor español! Seguiré estudiando español y considerando la historia y la cultura de México y sus relaciones con España y otros países, soñando con que llegue ese día. Finalmente, me gustaría expresar mi agradecimiento a todos los involucrados en este viaje. Gracias por los maravillosos recuerdos. ¡Nos Vamos!



私のメキシコ観を規定した人物及び、彼女と過ごした一日について

山崎夢芽

医学部医学科進学



流暢な日本語でメキシコの現在を語ってくれるUNAMの友人が、私の2週間のメキシコ生活の伏線を全て回収してくれた、と言っても過言ではない。メキシコどうだった？と尋ねられたときに真っ先に思い出すのは、最終日メキシコシティを案内してくれた彼女の語り口か、そうでなければ「全て終わった」という名前の村でベッドの上のタランチュラ、下のサソリと一緒に過ごした夜かのどちらかだろう。タランチュラやらサソリやらについてはスペイン語で記すほうが似合うので、日本語ではメキシコ滞在の終わりに彼女と過ごした1日について述べたい。

メキシコ研修の序盤1週間はメキシコ国立自治大学を中心に授業を受けつつ、国立人類学博物館やメキシコ市内のla ciudadela、芸術家フリーダ・カルコの美術館である「青い家」、メキシコシティ中心街のオペラハウス「ベジャス・アルテス宮殿」などを訪れて友人たちと楽しい時間を過ごしていたが、目まぐるしく進む行程に着いて行くことが精一杯で一つ一つの出来事や事象に関して深く考えることはあまりなかった。今覚えは「やたら嚴重なメキシコ国立自治大学の門の警備」「国立人類学博物館の王冠のレプリカ（現物はイギリスに贈ってしまった為今はない、とガイドの方が話してください）」「『青い家』のフリーダカルコのベッドの枕元に飾ってある数多の著名な共産主義者たちの肖像画」「中を見ることはできなかった『ベジャス・アルテス』の荘厳な雰囲気」などなど、この時点で伏線は張り巡らされていたの

だ。

最終日は自由行動であり、メキシコ国立自治大学の大学生に案内してもらうのが望ましい、と聞いたのち、私は国立自治大学の学生と交流した際に連絡先を交換していた彼女とコンタクトをとり、東京大学の学生4人と彼女とでメキシコシティを楽しむ計画を立てた。郊外の訪れることができいなかった観光地に挑戦してみることも考えたが、どうにも空港へ向かう貸切バスの出発時刻に間に合わなさそうだとということになり、彼女が立ててくれた計画にありがたく乗ることにした。

待ち合わせ場所にRAD WIMPSのシャツで登場した彼女に、バスの乗り方をレクチャーしてもらいメキシコシティツアーが始まった。私たちはよく見かけるメトロバスに興味は持っていたものの、実際に乗ることは叶っておらず、その二階建て路線バスから見る景色はとても新鮮で良いものだった。彼女とはペットの話やら兄弟の話やら、のんびりと語り合いながら市内を軽く解説してもらっていた。のだが、「この駅とこの駅は危ない…昔大学生が沢山殺されたところで。」という言葉に耳を疑った。

抗議活動を行う大学生と軍が衝突し、銃器を使用した軍が大学生たちを一方的に虐殺した、という話は確かに国立自治大学の講義で聞いた覚えがあるが、それは1968年のことだったはずだ。今も危険なのか？街並みはこんなにも落ち着いて見えて、東京を歩いているときと大きな違いは感じられないのに？

改めて「ベジャス・アルテス宮殿」に向かうバスの中で聞いたところによると、メキシコ国立自治大学に関しても政府との関係はとても良いとは言えず、現在も大学内に警察が侵入することは禁止されているらしい。ちょうど東京大学でも、学費値上げに反対する学生の安田講堂前での講義集会に警察が介入したとして一部で問題となっていた折ではあったが、レベルが違う。なんでも数年に一回のペースで大学生と警察・軍は衝突し、死者が出ることも珍しくないらしい。一

方で、もしくはそのせいで、大学内ではマフィアが堂々と活動しており、学生が使用していた建物が乗っ取られて大麻取引所にされているとのことだ。「元軍人がマフィアを構成することが多いため、マフィアの軍事力は強い…メキシコの一部の州では政府の力が行き届かず、マフィアが警察などの働きをしているんです」と聞くと、メキシコのマフィアの恐ろしいイメージを新たにしてしまうと共に、マフィアに支える社会もあるのだという現実を覗き見た気がした。

彼女のメキシコ国立自治大学での専門は植民地主義であり、オペラハウスに付属するベジャス・アルテス宮殿博物館の案内は非常に機知に富み、新たな視点を提供してくれるものだった。博物館ではÁngela Gurríaという人物に関する特別展示がされており、彫刻や絵画、Gurríaがデザインしたモニュメントや水道管？の写真が陳列されていたのだが、どうにもそれらはGurríaの思想的な背景を深く反映しているらしい。

驚くべきことに、Gurríaの作品の一部は先ほどの学生と政府の対立構造と関わっているのだ。メキシコ国立自治大学の学生にとって最も重大な事件は1968年のメキシコ夏季オリンピック反対運動の際の虐殺だが、Gurríaはオリンピックにあたりモニュメントのデザインを担当していた。そのモニュメントのテーマである、「メキシコ人は皆さまざまなルーツを持つものだから、区別して考えるのは間違っており、皆同じ『メスティーノ』なのだ」という主張が当時から現在にかけて根強く批判されているという。案内してくれる彼女は、「皆人種的に同じだと主張することは、メキシコ社会に未だ残る差別から目を背けることであり、問題の解決には繋がらない」と、その批判の軸を短く説明してくれた。

また、Gurríaのマヤ文明のピラミッドや彫刻をモチーフとして取り入れた作品も一部では否定的な見方をされている。「これらは古代文明の文化を自分の都合のいいように切り取り、さも自分の作品であるかのように使用する、いわば盗用だ」と彼女は語った。なるほど、確かにGurríaのイラストに

において古代文明の像は極端に単純化されており、どこか滑稽である。リスペクトはあまり感じられない、ようにも思える。

ベジャス・アルテス宮殿博物館は政府が運営しているため、政府が推進する思想に沿った芸術家や学芸員たちによって展示が行われており、このような現在では批判も色濃い企画もあるとのことだ。企画展示室の外にも沢山の絵画が壁にかけられていた。植民地主義の危険性を学んでいる彼女は、これらの絵画一つ一つを詳しく解説してくれたのだが、「イギリスに譲渡したと言われている国立人類学博物館の王冠は実際には強引に奪われたものであり、イギリスとの力関係を示している」という話や「スペインによる征服は記録されている書物によって大きく内容が異なるが、アステカ帝国による支配体制に脅かされていた人たちの一部がスペインを歓迎したことは事実だ」という話などは強く印象に残った。

まだまだ語り尽くせないが、このように彼女の目を通して見る現代メキシコ社会を覗くことで得られた学びは本当に多く、私のメキシコ観のみならず人生観にも大きな影響を与えたことは間違いない。彼女は日本文学にも造詣が深く、いつか留学したいと教えてくれたので、また会える日を心から楽しみにしている。

Las noches con tarántulas y escorpiones

Yume Yamazaki

No puedo explicar la sorpresa que tuvimos cuando vimos la cabaña por primera vez. Estábamos seguros de que la cabaña estaba bien para pasar un rato, pero no pudimos imaginar dormir bien toda la noche adentro con el horror. La situación podría haber sido diferente si hubiéramos podido beber, pero era un programa de la universidad.

Nosotros habíamos pasado una semana en México, estudiando en la Universidad Nacional Autónoma de México. Las clases estuvieron maravillosas. No olvidaré probar el bocadillo pelón dado por el profesor Rino. Pero, nosotros éramos estudiantes y los estudiantes generalmente quieren salir de clase y jugar. Quedarse en el pueblo pareció libre y agradable.

Sí, fue libre y agradable. Después de un largo viaje en autobús desde el aeropuerto, llegamos al pueblo de Maní y a la Escuela de Agricultura Ecológica U Yits Ka'an. Honestamente, nosotros imaginamos una cabaña más como un hotel, y las casas en la escuela eran lejos de un hotel. Las comidas ricas eliminaron nuestra ansiedad, y nosotros comenzamos a sentir como si estuviéramos en casa. Mientras oscurecía, tuvimos que pensar en cómo dormir. Yo iba a dormir en la cabaña con dos chicas. La habitación tenía dos camas y dos hamacas. Yo seleccioné la hamaca porque nunca había dormido en la hamaca, y lo pensé interesante.

En la primera noche, los artrópodos nos dieron la bienvenida. Déjame presentarte algunos artrópodos en la cabaña, los milpiés, las tarántulas y los escorpiones.

Podemos ver los milpiés en todo el piso y el muro en la cabaña. Milpiés son comunes en Japón también, y nosotros no nos preocupamos incluso cuando encontramos alguno en el cuarto de baño. Solamente tuvimos cuidado de no pisotearlos.

En la primera noche, jugamos con las cartas y decidimos

que los perdedores recorrieran fuera de las cabañas a oscuras. Desde la pequeña exploración, los exploradores volvieron a contarnos sobre la araña en frente del comedor. Era la primera vez que yo veía una araña con pelos.

Casi todas las arañas allí tenían piel negra, y algunas de ellas tenían cabello también. La tarántula más impactante estaba en el comedor la segunda noche. Yo misma no la vi, pero me despertaron los gritos del comedor. Yo fui al comedor y veía a mis amigos buscando información sobre tarántulas en internet. Ellos me dijeron sobre la tarántula del tamaño de un plato caminando en el comedor. Nuestra pregunta era si las arañas eran tóxicas o no. Descubrimos que las tarántulas no tienen una toxina fuerte, pero no hace falta decir que aprecié la hamaca.

En la estancia de tres días, vi el escorpión solamente una vez. El vino de un pequeño agujero en la puerta, caminó a través de la habitación y salió por un pequeño agujero en la puerta al otro lado. Probablemente los agujeros son para los escorpiones. El escorpión es pequeño y de alguna manera se ve lindo.

En todas las estancias en México mis amigas y amigos me ayudaron mucho, especialmente en las cabañas. Muchas gracias.



メキシコでの出会い

吉川理子

経済学部経済学科進学

好きなスペイン語は、

Muchísimas gracias

メキシコ滞在中、毎晩寝る前に日記をつけることが日課になっていた。この報告書を書くにあたって久しぶりに読み返していると、なんだかやけに会話文が多いのが目につく。その日に訪れた場所や体験した文化・食事などに関する感想は、自分でも笑ってしまうくらい適当なのに対し、今日はどこでどんな人に会って、その人がこんなことを言っていて、私はそれになんと返事をして……といった会話の記録に関しては、圧倒的な熱量でもって事細かに記されているのである。それだけ私にとって、メキシコでの様々な人との出会いや交流は1つ1つが印象深いものであり、何よりも大切な経験として記憶されているのだと思う。

メキシコでの初めての出会いはとある公園での出来事だった。メキシコシティに到着した当日、自由な時間があったためみんなでホテル周辺の区画を散策していたのだが、このときの私はといえば、メキシコの治安に対する不安から、ガチガチに緊張していた。常に周囲を警戒しつつ、渡航前にYouTubeで繰り返し視聴していた治安対策動画の内容を頭の片隅で反芻しながら歩く。そんな中たどり着いた公園で、他のみんなが謎の健康遊具で遊んでいる様子を眺めていたところ、突然背後に気配を感じ、心臓が止まる思いがした。しかし恐る恐る振り返ってみると、そこにいたのは小さな男の子で、Hi, where are you from? Nice to meet you!と愛くるしい笑顔で話しかけてくれたのであった。その瞬間、ふっと肩の力が抜ける気がしたと同時に、怯えすぎて視野が狭くなっていたそれまでの自分が恥ずかしくなった。麻薬取引や犯罪組織の抗争、殺人事件や強盗の多発など、何かと治安の悪さが

噂されがちなメキシコであるものの、現地に行ってみれば、当然そこには普通の人たちの平穏な暮らしが流れている。そんな当たり前の事実を頭では理解しているつもりでいたが、この男の子との他愛のない会話を通じて、初めて実感として納得できたように思う。外国という未知の環境を正しく恐れ適切な対策をとる一方で、自分の行動を制限しすぎることなく、そこでしかできない様々な貴重な体験に心を開くことの必要性を心に刻んだ。

2日目以降も、日々いろいろな出会いがあった。例えば、レストランでの注文といった本当に些細な日常のやり取りでさえも心に残っている。厨房のスタッフみんなで大合唱しながら皿洗いをしていた愉快的ピザ屋のお兄さんたちや、注文ミスで余ってしまった料理を私たちに無料で振る舞ってくれた上、最後にはみんなで記念撮影までしてくれたタコス屋のご夫婦など、まさに「陽気なメキシコ人」といったイメージ通りの店員さんたちとのやり取りには心が温まった。またメキシコでは、街中で見ず知らずの人に急に話しかけられるというイベントに遭遇することもしばしばである。ショッピングモールに行った際、他の人の買い物が終わるのを待っていたところ、黒マスクのおじさんが私の眼をじっと見つめながらスタスタと近寄ってきたため、流石にこちらも警戒し思わず後退りしてしまった。しかし彼は私の目の前で立ち止まると、Welcome to Mexico!とだけ言い放ち、そのまま何事もなかったかのように踵を返して、そそくさと去っていったのであった。突然のことで訳が分からず、遠ざかる背中にThank you...!と返すのが精一杯だったが、次第に可笑しいような嬉しいような、不思議な感情が込み上げてきた。その後も何回か街中で同じように声をかけてもらうことがあり、メキシコの方々の外国人に対する温かな態度に感謝するとともに、ふと、このような声かけは、メキシコ人の自国に対する誇りの表れなのではないかとも感じた。メキシコにおける愛国感情の強さは、例えば街中の風景といった身近なところにも見出すことができる。私たちがメキシコを訪れた9月前半は、独

立記念日の直前ということもあって、街のいたるところに国旗が掲げられていた。国旗をつけた車が辺りをたくさん走っているなど、日本ではまず見られない光景である。強い愛国心の背景には、植民地支配からの独立やメキシコ革命など、民衆の力によって国を作り上げてきた歴史の存在があるのかもしれないが、このような自国に対する強い誇りがあるからこそ、外国人を見かけた際に「ようこそ、我らがメキシコを訪れてくれました」と誇らしげに歓迎したくなるという心理があるのだろうと、そんなことを想像していた。

2週目に突入しユカタン半島に移動してからは、サソリやタランチュラといった人間以外の生き物との刺激的な出会いも経験したりしたが、この研修全体を通して特に心に残っているのは、最終日のUNAMの学生たちとの出会いである。この日は、ユカタン半島から再びメキシコシティへと戻ってきて、各自、自由にグループを作り、UNAMの学生たちの案内によって市内観光をするという行程になっていた。私たちのグループはメキシコシティ南部のソチミルコという街を訪れ、カラフルでかわいらしい舟がいくつも浮かぶ運河をゆっくりと進みながら、岸辺に広がる緑の風景に癒されるのどかな時間を過ごした。クルーズの最中、スペイン語と日本語の両方をお互いに駆使しながら様々な会話を楽しんでいたが、大学で日本語を学んでいるというだけあって、UNAMの学生たちは皆、アニメやJ-POPといった日本文化の話題には特に興味津々のようであった。その他にも美味しいレストランへ昼食に連れて行ってもらったり、市場の屋台でフルーツシャーベットをご馳走になったりなど、外国から来た出会ったばかりの私たちのために綿密に計画を練り、1日中親切にもてなしてくれたUNAMの学生たちの厚意には心から感謝している。今度は私たちが日本を訪れたUNAMの学生たちを全力で迎えられるように、いつの日か再会することを約束しながら、別れを惜しんだ。この日出会った学生のうち何人かとは、メキシコから帰ってきて1ヶ月以上が経った今でもSNSを通じてやり取りを続けている。

2週間のメキシコ研修を経て、私は何を学び得ただろうか。改めて考えてみると、自信を持ってこれと答えられるものは何もないような気もしてしまう。もちろん渡航前と比べれば、実践経験を経て、スペイン語でコミュニケーションを取ることにに対する抵抗はいくぶん軽減されたし、メキシコの文化や歴史についてもその一部を窺い知ることができた。それでも、2週間という限られた期間では言語の上達にしる、文化の理解にしる、いずれも中途半端に終わってしまった感是否めないというのが率直な感想である。しかしながら、何もかも中途半端に終わってしまったというその事実こそが、逆に私の好奇心を掻き立てもする。メキシコという1つの国だけをとってきても、そこには2週間ではとても把握しきれないような広大な未知の世界が広がっている。これから先の人生、長い時間をかけて、もっと広い世界、たくさんの文化を知り尽くしたい。今回のメキシコ研修はその記念すべき第一歩となった。

Mis Encuentros en México

Riko Yoshikawa

Mi estancia de dos semanas en México puede ser caracterizada por los encuentros e interacciones muy memorables con varias personas. Un ejemplo es el encuentro con las personas que nos dieron las bienvenidas en los restaurantes. Los jóvenes de la pizzería que estaban lavando los platos bailando y cantando, y el matrimonio de la taquería que nos sirvió gratis unos platos sobrados, y además nos tomamos una foto juntos como recuerdo...disfruté mucho la experiencia de tener interacciones con los mexicanos muy amables y simpáticos como ellos.

Además, me dí cuenta de que, en México, no es tan raro que un extraño se te acerque en la calle. Por ejemplo, cuando estuve en el centro comercial, un tío poniéndose una mascarilla negra me acerqué de repente, dije “Welcome to Mexico!”, y se fue como si no hubiera pasado nada. Tuve mucho miedo por un momento, pero después me pareció un poco gracioso el suceso y le di las gracias por su bienvenida en mis adentros. A decir verdad, él no era la única persona que me dijo bienvenida en la calle, y tuve algunas más experiencias similares durante mi estancia. Creo que estos actos de dar bienvenidas a los extranjeros muestra no solamente la calidez de los mexicanos, sino también su orgullo a su propio país. En comparación con Japón, pienso que hay más patriotismo en México. Por ejemplo, veía la bandera de México en todas las partes de la Ciudad, y esto es una señal que los ciudadanos tienen amor a su país. Me imagino que por su patriotismo fuerte, los mexicanos quieren decir “bienvenidos a nuestro país, México” con aire orgulloso, cuando ven a los extraños.

Entre varios encuentros que experimenté en mi estancia, el más memorable fue el con los estudiantes de la UNAM.

El último día de nuestro viaje, tuvimos tiempo para recorrer libremente la CDMX, con los estudiantes de UNAM como guías. Nuestro grupo fuimos a un sitio se llama Xochimilco, y nos divertimos contemplando el paisaje del río, el verde, y las barcas coloridas y bonitas. Charlamos mucho durante el crucero usando español y japonés sobre varios temas. Agradezco de todo corazón a los estudiantes de UNAM por haber planteado una excursión muy interesante y habernos acogido calurosamente. Hoy en día, más de un mes después del viaje, todavía estoy en contacto con algunos estudiantes de la UNAM en redes sociales.

Aunque había tenido miedo a los peligros como crímenes en México antes de la visita, estoy muy contenta de haber podido visitar al país con mis compañeros alegres. Fue una experiencia inolvidable, y me anima a aprender más el lenguaje y la cultura de latinoamérica. Los encuentros e interacciones con varias personas en México quedarán grabados en la mente para siempre.



編集後記

畑田直樹／松井新

メキシコ研修報告書の作成担当として、参加者の皆にエッセイを書いて提出してもらうにあたっては、メキシコで過ごした二週間で自分が学んだこと・感じたことをなんでも書き残してほしい、というふうに幅広い内容を募集した。原稿を編集しながら仲間たちのエッセイを読んでいると、何度も「ああ、そんなこともあった、あった」と研修の細かな出来事を思い出しては思わず微笑みがこぼれてしまう。道を歩いているとなぜか一緒に写真を撮りたいとお願いされたこと、独立記念日が近いこともあり街中がメキシコ国旗でいっぱいだったこと、広場の社交ダンスに誘われて恐る恐る挑戦したこと、少年たちとサッカーをしたこと、飛行機のシートモニターがつかないまま14時間のフライトを耐え忍んだこと、現地の大学生たちは自分たちの歴史や文化にとっても真剣に向き合っていたこと―。この編集後記を書くために皆の原稿を少しだけ見返すつもりだったのに、何度読んでも毎回読み入って思い出にふけてしまう。そのくらい、このメキシコ研修は自分にとって記憶に深く刻み込まれた二週間だったのだと思う。

読んでいただければわかるように、参加者ごとにエッセイに書かれている内容は実に多種多様なものとなった。最終日のメキシコシティでの自由行動を除けば、基本的にすべて集団行動だったため、私たちは同じ場所を訪れ、同じ体験を共有していたはずだ。それにもかかわらず、エッセイの内容がこれほどに多様になるのは、各自の関心によって感じ取ることや注目する点が大きく変わるということだからだろう。これを読んでいる研修参加者には、ぜひ一度皆のエッセイを読んでみてほしい。きっと、自分が見落としていたメキシコの側面を再発見することができるはずだ。

一方で、いくつかのことは、多くの原稿の中でゆるやかに共有されている。

一つは、研修の最中は私たちが少し不満に思ったり、ハードルが高く感じていたようなことも、エッセイの中ではとてもポジティブな経験として綴られていることが多いということ。例えばマニの村の農民学校で宿泊した際には、予想外に劣悪な生活環境を前にし

て、正直結構げんなりした様子の人も多かった様子だった。しかし皆のエッセイを読んでもみると、農民学校の人々に温かく支えてもらった経験や、日本の生活環境がいかに当たり前ではないかを理解できたことなど、皆がここでの経験を大切に思っている様子がうかがえた。その他にも、当時は文化や常識の大きな違いに戸惑い、少し身構えてしまった出来事も、今振り返ると私たちの中で貴重な出会いだったと思える出来事になっている。

もう一つは、私たちの多くがメキシコの人々の温かさを印象深く記憶しているということ。メキシコの人々は、見知らぬ観光客の私たちにも気軽に明るい挨拶をしたり軽い世間話をしてくれた。授業をしてくれた先生たちは、私たちのためにゆっくり話して、頻繁に私たちの理解が追いついているか確かめてくださった。UNAMの大学生とメキシコシティ内を観光したときには、彼らの大きなホスピタリティに感動した参加者も多いのではないだろうか。地球の反対側で出会った人々の温かさに包まれたことは、私たちが今後の人生でそれぞれの新天地に向かい、新たな人々と関わっていくために、一種の安心と希望を与えてくれる。

最後に、この研修を可能にくださった方々に感謝の意を表したい。Gregory先生は、入学時スペイン語を全く話せなかった私たちを、面白おかしい具体例を用いて説明する楽しい授業で辛抱強く指導してくださった。研修中は、トラブルに対して的確で頼れる対応をしてくださり、全員が美味しい食事をお腹いっぱい食べられるよう気を配ってくださった。同じく引率してくださったさやかさんは、すぐにはしゃいでどこかへ行ってしまう私たちの安全管理をしてくださり、お金の管理や予定の連絡などで研修の円滑な進行を支えてくださった。研修前の準備に関する案内をしてくださった宮地先生は、情報の少ない中でも、私たちが充実した時間を過ごせるよう研修の計画を立ててくださった。そして、メキシコ研修への参加を共通のモチベーションとして、ここまで励まし合いながら学んできたTLPスペイン語生の仲間たちとは、メキシコでの二週間を経て一層絆を深めることができた。

今後も私たちがそれぞれの形でスペイン語と触れ合いながら、いつかまたメキシコの地を訪れ、その温かさに再び触れられる日を心から楽しみにしている。

